

ねらい

通学路で出会う人(見守り隊の方)と仲良くなるための「なかよしの会」に向けて、自分が考えたことを生かそうとする。

幼児期との
つながり

- ① 子どもの心がときめき、心が動く幼児教育の環境構成を参考。(豊富な材料、特別感のある材料、出し方・置き方の工夫など)
- ② 魅力的な必要感のある活動(通学路で出会う人と仲良くなるための「なかよしの会」の設定。
- ③ 子どもの安心とワクワクを支える教師の働きかけ(共感する、認める、一緒にするなど)

実践内容



幼児教育から
学ぶ
生かす
児童理解



(園)ハーモニーピザパーティー(P.74)の環境

本時の環境(数種類の材料を準備し、子どもたちが選択できる)

今日は何を

「目的意識」

めあてが明確だと、
子どもは夢中になっ
て取り組みます。



だれのために

「相手意識」

相手がいると、
子どもたちは、より
動き、燃えます。
質の高い学びに。

本時の様子「なかよしの会」に向けて準備を進める子どもたち

大きな旗を飾って迎えたいな。
顔をかくと喜んでくれるかな。



大きな看板をつくりたい。みんなで
協力して作ろうよ。

もっと仲良しになって「ありがとう」を
伝えたいな。

ナイスアイデアだね。見守り隊の
人はぜったい喜ぶよ。

授業を振り返って

子どもの主体性や意欲を引き出し、夢中をつくるために、幼児期に培ってきた子どもの力を信じて、子どもとともに考えること、子どもに任せてみることを大切にしてきた。教師の役割は、その子どもの思いや願いを実現できるように、環境を整えたり、支援したりしながら導いていくことだと思っている。「大きな旗を作りたい」「大きな看板を飾りたい」という子どもたちの願いを実現するために、模造紙とポール、横長の段ボールなどを用意したり、子どもたちのほしいものを次の時間までに用意したりした。いろいろな材料を目の前にして、子どもたちは目を輝かせ、見守り隊の人たちのために心を動かして夢中になって活動する姿が見られた。見守り隊の人をもっと身近に感じ、思いがさらに深まるよう、「なかよしの会」までに見守り隊の方々への相手意識が深まるよう働きかけた。